

## 【図書館・美術館整備方針について】

### 1 目的

この整備方針は、「伯耆の国よなご文化創造計画」に掲げる図書館・美術館整備事業について、その概要を定めるとともに当該事業の推進を図ることを目的に策定します。

### 2 整備方針

#### (1) 市民合意の形成

図書館・美術館整備事業については、市民、利用者及び関係団体の意見、要望を聞きながら基本設計市民懇談会の実施により基本設計(案)を定め、さらに、パブリックコメント、タウンミーティングを通して広く市民意見を聴き説明に努めるとともに、公共事業評価による検証を行います。

#### (2) 整備の位置

図書館・美術館は、本市の中心地に立地しており、公共交通の利便性もよく、山陰歴史館とともに米子市の文化ゾーンを形成しています。中心市街地活性化基本計画では、このエリア内各施設の相乗効果による集客を図ろうとしていることもあり、現在地における現有施設を活用した整備を実施します。

#### (3) 効率的な施設運営等

施設整備に当たっては、隣接する図書館・美術館の地理的条件を活かし、展示室、多目的研修室、会議室等の両施設で共用できる設備については、共用化に努め、効率的な施設の利活用と適切な管理運営に努めます。

また、環境問題に配慮し、太陽光発電の導入について積極的に検討します。

#### (4) 安全性と快適性の向上

憩いの道を活用し、市役所駐車場から図書館・美術館への導線を整備することにより、安全性と快適性の向上を図ります。

#### (5) 周辺環境の整備

旧2中校舎は、建築後50年以上が経過しており、老朽化が著しく、耐震性や景観上の問題があることから解体撤去します。解体撤去後の跡地については、憩いの道の持つ「癒し」や「ゆとり」の機能を充実するため、環境整備を実施します。

#### (6) 他の機関との連携

インターンシップ等の活用により、市内にある建築関係の専門的教育機関との連携を図り、意見や提案等を整備に活かします。

### 3 施設整備の概要

#### (1) 米子市立図書館

##### 施設

米子市立図書館は、昭和53年に県立米子図書館として建築、平成2年に米子市に移管され現在に至る。(開館後32年が経過)

- ・ 鉄筋コンクリート2階建
- ・ 敷地面積 3628.34 m<sup>2</sup>
- ・ 建築面積 1098.08 m<sup>2</sup>
- ・ 延床面積 1969.26 m<sup>2</sup>
- ・ 開架書架・親子読書コーナー・学校支援移動図書館専用スペース・書庫・新聞庫・特設文庫室・郷土資料室・大会議室・事務室など

##### 利用状況

(平成21年度)

蔵書数	年間受け入れ冊数	職員数	登録者数	利用者数	個人貸し出し	団体貸し出し
246,274 冊	13,192 冊	14 人	54,507 人	95,196 人	373,004 冊	38,076 冊

学校図書館への貸し出し冊数 26,819 冊

学校図書館からのレファレンス件数 1,576 件

##### 課題

米子市立図書館は、昭和53年に県立米子図書館として建築された後、平成2年に米子市立図書館として移管されました。その後、市民の皆さんの利用も年々増加し、市民の図書館として成長してきました。

建築後約32年が経過し、当初、蔵書数15万冊として設計されていましたが、現在の蔵書数は約25万冊となり、保管庫・開架スペースとも狭く、今後の資料収集と保管は困難な状態となっています。また、開架スペースでの車椅子使用者等の通路確保が不十分なほか、親子での読書や読み聞かせ等も円滑に行えない状態です。

米子市立図書館の事業として、全国から注目されている学校支援事業ですが、そのための作業スペースも不十分で、全体スペースの確保とバリアフリー化の推進が必要となっています。

また、施設の経年劣化への対応や大会議室の効率的な活用、駐車場からの安全な導線の確保なども課題となっています。このように、米子市立図書館が抱える多くの課題を解消し、生涯学習や情報提供、さらに、子どもの読書を支える拠点として、市民のための快適で利用しやすい開かれた図書館を目指した整備を行う必要があります。

なお、建築関係法令により既存建物面積の5割以上の増築には現在の基準に基づく大幅な改修が必要となることから、増築面積は既存の床面積の二分の一未満(約984m<sup>2</sup>)とします。

## 整備の概要

空調、トイレ、電気設備等の改善を含む既存建物部分のリニューアル

経年劣化による不具合に対応するため、内装、床、壁面、電気設備、空調設備等を含んだ全面的なリニューアルを実施します。

### バリアフリー化の推進

来館者用エレベーターを新設します。

バリアフリーに対応した書架等の改善、車椅子で通行可能な通路部分の確保を行います。

### 一般開架スペース及び親子読書コーナーの拡充

開架部分の蔵書数を増やし、閲覧スペースや情報提供スペースを拡充します。

親子読書コーナーは、一般開架利用者との分離を図り、利用しやすくするとともに、授乳コーナー、子ども用の多目的トイレの設置を検討します。

### 学校支援事業充実のためのスペースの拡充

米子市内の小・中学校への配本支援を円滑に行うため、作業スペースを拡張します。

### 特設文庫室・参考郷土資料室を機能的に拡充

特設文庫室・参考郷土資料室を拡充し、資料を効率よく機能的に配置することにより、閲覧スペースを確保し郷土学習への利用を図ります。

### 美術館との共用にも配慮した大会議室の利便性を高める改善

会議室の効率的な利用を図るためパーテーション等の導入と照明その他の改善を行い、会議・講座・展示・研修等に有効に活用できる多目的研修室として美術館との相互の活用を考えた整備を行います。

### 図書資料の収容能力を高めるための書庫の拡張

図書資料等を適切に収集・保管するため書庫を拡張します。

### その他

対面朗読室・ボランティア活動用のミーティングルームの設置などを検討します。

耐震診断結果、施設の利用状況等を考慮し、適切な耐震補強を実施します。

## (2) 米子市美術館

### 施設

米子市美術館は、昭和58年6月に山陰地方ではじめての公立美術館として開館しました。収蔵品は郷土作家を中心に、版画・絵画・写真など約1700点を所有し、県展、市展、特別展等の展覧会や米子市の秋の文化祭開催等にも利用され、誰もが気軽に利用できる市民ギャラリーとしてのコンセプトを持つ市民に親しまれる美術館となっています。

- ・鉄筋コンクリート2階建
- ・敷地面積 1713.95 m<sup>2</sup>
- ・建築面積 1050.74 m<sup>2</sup>
- ・延床面積 2062.15 m<sup>2</sup>
- ・展示室5室・収蔵庫・事務室・荷解室・倉庫など

### 利用状況等

#### 来館者数の推移

年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
人数	55,570人	80,515人	68,212人	77,838人	54,947人

#### 常設展の開催日数

年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
日数	131日(3回)	68日(2回)	95日(3回)	90日(3回)	95日(3回)

#### 美術館収蔵品内訳

区分	洋画	日本画	版画	素描	彫刻	写真	書	合計
点数	192点	88点	313点	294点	22点	785点	9点	1,703点

その他 資料 57点

### 課題

美術館には、展示、収蔵、研究などの様々な役割がありますが、米子市美術館は市民ギャラリーとして開館された経緯があり開館当初より市民と一体となり文化と芸術の振興に努めてきました。

現在、開館後、27年を経過し施設内部の老朽化も進み、また、収蔵品も増えると同時に、利用者のニーズも変化してきたことから、今後も美術館を市民に親しまれる文化・芸術の情報発信と活動の拠点として整備する必要があります。

美術館は、高齢者から子供まで利用しやすい市民ギャラリーとしての効率化と利便性の向上を図るとともに、訪れる人の美的欲求を満たし、日常の生活に「うるおい」や「やすらぎ」をもたらす文化的空間を提供する事が大切であり、旧2中校舎跡を含めた文化ゾーンとしての景観整備と駐車場からのゆとりのある導線の確保が必要となっています。

## 整備の概要

### バリアフリー化の推進

正面玄関ドアの自動化及び来館者等専用のエレベーターを設置します。

### ロビー・事務室・応接室の拡張

ロビー・事務室・応接室に接する部分を建物の外側にある柱部分（2 m）まで拡張し、正面玄関の右側に休憩スペースを設けます。

### 展示用パーテーションの改善

展示室利用者の利便性の向上と展示室としての機能を高めるため、現在の展示用パーテーションをレールによる天井から吊り下げ式のパーテーションに改善します。

### 空調設備等のリニューアル

築後27年を経過し、空調設備・照明設備の老朽化が進む中で、長期的な観点から、空調設備、照明設備などをリニューアルするとともに、展示面及び床面の全面張替えを行います。

### 収蔵庫の拡張

収蔵庫に隣接し、美術館2階にある倉庫を第2収蔵庫に改造するとともに、既存の収蔵庫の内部を改修し、収蔵機能を高めます。

### 新たな収納スペースの確保

2階の倉庫を収蔵庫に改造する代替措置として、1階の荷解室の上部を改修し、倉庫スペースとしての空間（約50 m<sup>2</sup>）を確保します。

### 図書館との共用化

展示室、多目的研修室、会議室等については、図書館・美術館の共用施設として、増築する図書館にこれらの機能を有する施設を設けることを検討します。

## 5 概算事業費

現時点における総事業費の概算額は、本市の厳しい財政状況を踏まえつつ、約10億円（旧2中の解体撤去費及び周辺環境整備を含む。）程度とします。

### 米子市教育委員会

「図書館・美術館整備基本設計（案）」は、関係団体の要望、図書館協議会・美術館協議会等で出た意見、ワークショップで出された意見、市政提案等をふまえて整理した整備方針をもとに策定しております。